

ダビデ像について

(公財)滋賀県希望が丘文化公園

青少年の健全なレクリエーションの場としての希望が丘文化公園内の青年の城に、そのシンボルとして自由と正義を象徴する青年立像を設置することにより、多くの人々、ことに青少年に気宇壮大、進取の気性を養うため設置されました。

青年の城にある『ダビデ像（大理石の像）』は、500年前間のルネッサンス期につくられたミケランジェロのオリジナルと、形・大きさ・材質・製法など全く同じ像で、現在、世界に二つとはない貴重な模刻です。

使われている大理石（36トンの大きさ）は、ミケランジェロが用いたのと同じ、イタリアのカッラーラ山で採掘された白大理石（これは「ビアンコ・カラーラ」と呼ばれています）で、挑戦3度目にしてようやく切り出しに成功されたという経緯があります。

この像は、ミケランジェロの彫刻法を伝承するリド・ボベッキ教授（当時、国立ルッカ美術大学に在籍）が、3人から6人の彫刻家とともに、5年の歳月を費やして製作、完成したもので、オリジナル像とともに、大理石彫刻としては世界最大級の作品となります。

<青年の城に設置された経緯>

この『ダビデ像』は、ミケランジェロの三大傑作の一つであり、他の二つ『ピエタ像』と『モーゼ像』とともに、かつての日本文化財団（名誉会長／松下電器産業株式会社会長 松下幸之助氏）が、ミケランジェロの生誕500年を記念して昭和40年代初めにイタリアに製作依頼されたものです。（なお、『ピエタ像』『モーゼ像』は岐阜県美術館にあります）

日本では、最初、東京赤坂の「ミケランジェロ彫刻館」にて展示され（昭和45年9月～）、その後、京都市美術館でも展示されましたが、昭和46年9月、青年の城が最終的・恒久的な設置場所として選ばれました。

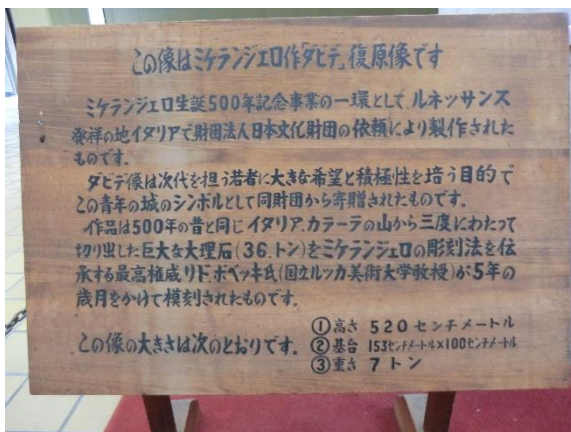
<仕様>

高 さ : 5メートル20センチ（台座を含めると6メートル）
重 さ : 7トン（大人80人分）
制作費 : 1億5千万円

<台座には>

台座には、松下幸之助氏の揮毫により「体験せよ 体験は宝である」という言葉が刻まれています。

【写真／データ】



【新聞】

京都新聞に採り上げられました。



京都新聞社

2023年12月9日

...

ダビデ像のレプリカが、宿泊研修所「希望が丘文化公園青年の城」（滋賀県竜王町薬師）にある。吹き抜けの2階に届くほどの大きなサイズ。そもそも、ダビデ像がなんで滋賀にあるの？ と思う人も多いはず。「超大物」のこれまでとこれからを探った。建物に入ると、巨大な彫像が目の前に現れた。高さ5・2メートル、重さ7トンの実物大。台座を含めると6メートルにもなる。ダビデは古代イスラエルの王とされる。巨人ゴリアテと戦う若き姿を表現した像は、巨匠ミケランジェロによるルネサンス期の代表作だ。同施設などによると、この忠実な模刻の誕生は...



i

KYOTO-NP.CO.JP

滋賀県の施設になぜ「超大物」ダビデ像？ 実はあの名経営者ゆかりの作品だった | 文化・ライフ | 地域のニュース | 京都新聞